より良い介護サービスを目指して

サンシャイン福祉振興会では安心安全な介護ができるよう、移乗用リフト、超低床ベッド、リハビリ器具を導入しています。
今回は、それぞれの導入の経緯などを紹介します。

●移乗用リフト

▲リフトを使用した安全な移乗

サンシャイン美濃白川では5名、あいらんど美濃白川では3名の方に移乗用リフトを使用しています。「利用者の安全」と「職員の負担軽減」を考え、適切な福祉用具を活用しようという考えのもとに導入しました。

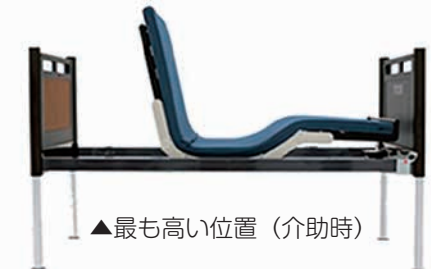
リフトの使用は、身体の大きな利用者を安全に移乗でき、職員の腰痛予防にもなるというメリットがあります。

その反面、機械的になったり、利用者が恐怖を感じたりするデメリットがあります。そのため、常に声を掛け、様子を伺いながら介助するよう心がけています。身体を包むスリングシートの着脱に協力的な方もおられます。

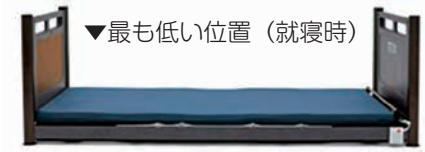
今後もリフトの使用方法と目的を理解し安全な移乗介助をおこなっていきます。

●超低床ベッド

長年の習慣として布団を敷いて寝ていた方が「体が思うように動かなくなった」「介護が必要になった」という理由でベッドに変更するケースが多いと思います。しかし、ベッドには常に転落というリスクがあります。一方で布団を敷いて休まれる場合には、「介助がしづらい」という問題がありました。



▲最も高い位置（介助時）



▼最も低い位置（就寝時）

今回あいらんど美濃白川に導入した「超低床ベッド」は、床上11センチから61センチまで高さ調節ができます。低い位置では、畳に近い感覚で過ごしていただけます。床からの立ち上がりが難しい方でも、その方に合った高さに調節でき、利用者の「できること」を支援することができます。

超低床ベッドの導入により、快適に過ごすことができ、利用者の生き生きとした生活に繋がっています。

●リハビリ器具

サンシャイン美濃白川デイサービスセンター、佐見デイサービスセンターせせらぎ園では、いつでも体を動かせる機会やマッサージによる癒しの時間を提供できるようにとリハビリ器具を導入しました。

はじめは職員に勧められて仕方なく行う方もありましたが、今では「今日はあのリハビリはやらんの？」と言われたり「あんた、あれ気持ちがええで使ってみやあ」と利用者同士で器具を勧めたりする姿も見られます。

中には、脳トレのプリントや裁縫を行いながら器用にペダルエクササイズで足の運動をされる方もあります。他施設へリハビリに通っている方も「ここでもリハビリができるで嬉しい」と滑車を使って運動しておられます。

どれも気軽に行えるものばかりで、お気に入りの器具を使用することを楽しみに来所される方もあります。

「気持ちがええなあ。こんないいものが昔にあったら、もっと働けたのに」「痛いところが和らいできた」と大変喜んでおられます。

継続して使用し、元気で過ごしていただきたいです。

▲左から滑車訓練機、足湯、フットマッサージ、ペダルエクササイズ

現在、特別養護老人ホームの入所要件は要介護3以上であり、更なる利用者の重度化と介護職員の負担増大が懸念されます。また団塊の世代が高齢者となり、利用者の求めるケアの内容が変化することも考えられます。

今後も利用者と職員にとって安全で快適な施設となるよう、様々な福祉用具を活用し、より良いサービスの提供に努めてまいります。